

6月には、小学校では運動会等の学校行事、中学校では中体連の大会があります。また、林間学校や臨海学習、キャンプや登山等の準備が始まります。これらの行事に向けて、自分の学級の実態に合う具体的な目標を立てて、子どもたち自身が役割を分担して活動できるように支援しましょう。その際、活動の様子をよく見るようにして、リーダーの子ども等の悩みをしっかりと聞き、必要な援助することが大切です。



<小学校>

子どもと共に「遊ぶ」ということ



子どもと一緒に遊ぶうちに、その子の主体性を伸ばす鍵がつかめてきたぞ。○曜日の放課後は、子どもと遊ぶようにしよう。

先生は僕たちのことを本当に分かってくれているよ。

この子には、授業中には見られない優しい一面があったんだな。この姿をありのまま認め、学級に広めたい。

先生には何でも相談できる。授業も楽しいよ。

教師に近づいて来ない子どもにこそ、自分から働きかけて、寄り添うことが大事だな。

連絡帳は、保護者との信頼関係をつくる大切なコミュニケーションツール！

連絡帳は、保護者のSOS その日に対応！その日に連絡！

保護者の方は、教師が思っている以上に悩んだり、考えたりして連絡帳を書いています。それは、いわば保護者のSOSです。

その内容について、誠意をもって対応し、たとえ解決していなくても、その日のうちに連絡をとり、経過を報告しましょう。

声を聞き、お互いの気持ちを伝え合うことで、保護者との信頼関係がつけられます。

連絡帳にはキラリをプラス！！

連絡帳の返事には、その子の頑張っている姿についての内容を一言プラスしてみましょう。「先生は我が子のよいところを見ていてくれる」という思いが、保護者との信頼関係につながります。

<中学校>

子どもの心に響くのは ～認めてくれる先生からの一言～

自分のよいところを認めてくれる先生からの「がんばったね」「いいぞ」の一言は、生徒の心に響き、生徒が自己肯定感を高めるかけがえのないものです。

そのためには、日頃から「生徒1人1人のよさを見つける」目をもって生徒と接しましょう。

《よさを伝えるときは》

- 「〇〇さんが帰りの会のあとに、いつも机の整頓をしてくれるから、翌朝は気持ちよくスタートできるよ。」のように言葉や行動を、他の生徒や学級にとってのよさと結びつけて伝える。(忘れないようにメモしておく)
- 「〇〇さんが、すごく喜んでいたらよ」「先生、あなたの一言がすごくうれしかったよ」のように、相手の気持ちとして伝える。
- 学級で伝えられそうなことは学活や学級通信で他の生徒にも広げる。
- メモをもとに多くの先生でよい姿を共有し、いろいろな立場の先生から伝える。

学級内の諸活動の組織化 ～ミニ企画の実施～

秩序が乱れてくる時期です。ルールや約束事に立ち返り、再度集団の意識を高めるために、生徒による「ミニ企画」を実施してみてもどうでしょうか。

※組織を生かした企画の立ち上げを

班長会等による企画→学級への提案→議長等を司会役にした学級会、などの段階を経ることで、学級組織や自分の役割を意識できるようにしていきます。

※「ミニ企画」のねらいを明確に

みんなで取り組む必要感がもてるようにするために、教師は「〇〇を通して友のよさを再発見」等の「ミニ企画」のねらいを明確にするように促し、活動の意味付けをしましょう。

※互いに“楽しめる”「ミニ企画」を

短学活を使った大縄跳びの練習、教育実習生とのレクリエーションなど、みんなで楽しめる「ミニ企画」が学級の団結や所属感を深めます。教師は、生徒の取組のよいところを見つけましょう。